



DVD『お部屋で楽しむ北海道の路面電車 札幌編』

市電への愛や、思い出を語って頂くこのコーナー。第6回は映像レーベル「Super Standards」の高橋研太さんと山本顕史さん。市電とともにある沿線の、何気ない日常風景を瑞々しく切り取った美しい映像は必見です。



—山本さんには『まちのモト』の撮影でもお世話になっておりますが、DVD を制作しようと思ったきっかけが『まちのモト』だったとか……

山本：そうなんです。去年の市電フェスティバルに、撮影で初めて行って感動して。子どもは市電がすごく好きなんだなと思ったことと、あんなに来場者が多いことも意外だった。

高橋：それと、やっぱり市電は札幌の懐かしい風景の一つだから、映像としてきちんと残したいなと思ったこともありますね。

—約1年に及んだ撮影期間ですが、大変だったことは？

高橋：冬のササラ電車と夜明けの時間帯の撮影ですね。ササラ電車を撮影するときは夜中の2時集合。ラッピングされていない緑の車両だけを撮影していたので、早朝6時台の電車を待っていても、緑の電車が来ないこともあって。結局、撮影できずに帰ってくるということも。

山本：毎日同じ場所で三脚を構えて待っていると、乗客の方にも「この人たち、毎日いる」って思われていそうで、それが妙に恥ずかしかった（笑）。

—逆に楽しかったことは？

山本：小学生が手を振ってくれたり、話しかけたりしてくれて、かわいかったですよ。あと冬の撮影時はかなり着込んで行くので、外にいても寒さはあまり感じないんです。そういう状態で、朝方にボーッと雪景色と市電を見ているとかなり癒されました。

高橋：身近なところに、印象深い景色が意外とたくさんあるんだなという発見もあったよね。自分が一番気に入っているのは、桜の木をまとめたシーン。最初は線路沿いに、桜の木なんかほとんどないと思っていたのですが、探せば小さな桜の木があちこちにあるんですよ。

—市電の魅力とは？

高橋：決して早くはないスピードだけど、イライラしないところが市電の不思議な魅力だと思う。あのゆっくりとしたスピードが気持ちいいというか。

山本：あのスピードで街を見ていくのがいいんですよね。運転席側の一番前の席に座って、熱心に前を見ている子どもの気持ちがよくわかる。

市電 ♥ 特別編

四番街まつりでのカフェ電車や、市電フェスティバルなど、夏の市電は一層アツい！

カフェ電車 7/9(土)・7/10(日)

→西4丁目から西15丁目の間を、お祭り特別運行。折り返しのときに、後ろの運転席へ移動してきた運転手さんを拍手で迎える乗客の皆さん。



←おいしいコーヒーを片手に、車窓や『お部屋で楽しむ北海道の路面電車 札幌編』の予告編を眺めて、約15分のカフェタイムを満喫。

—では最後に、本作品のお勧めポイントとともにメッセージをお願いします。

高橋：夏のシーンから冬に切り替わる場所は、ぜひ観てほしいです。南高のグラウンドでラグビー部が練習している横を、市電が通り過ぎていくシーンもぐっときますよ。

山本：日常のほんの1シーンだけど、すごくいいですよ。あと望遠レンズで撮影した風景は、ちょっと肉眼では見ることのできない絵になっているので、面白いと思います。一日の終わりに、リラックスした感じでこの作品を観てほしいですね。



Super Standards

演出家の高橋研太と写真家の山本顕史との偶然の出会いから発生したレーベル。北国である札幌の地を活かし、さらにそこから世界へ発信する映像レーベルを目指している。これまでに短編映画を1本と、Music Videoを2本製作。

「お部屋で楽しむ北海道の路面電車 札幌編」

字幕：英語・中国語／作品時間：約70分

製作：Super Standards

(株式会社ハレバレーション／BLOCKHEAD FILMS)

発売時期：2011年8月

販売価格：4,800円(税抜き)

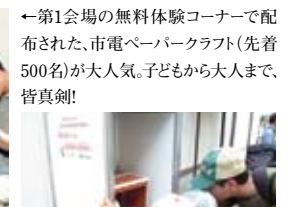
販売場所：下記ホームページより

<http://harebare.co.jp/tram.html>

市電フェスティバル 8/28(日)



←両方の会場を巡る「ミッション&スタンプラリー」も実施(先着1,000名)。仕掛けられたミッションに、子どもたちも大はしゃぎ。



←第1会場の無料体験コーナーで配布された、市電ペーパークラフト(先着500名)が大人気。子どもから大人まで、皆真剣!



←同じく第2会場では、市電の会賛助会員入会受付や、VOL.1で市電♥に登場して頂いた、水彩画作家の鈴木周作氏の絵画展も開催された。

